

第9学年*組 道徳科学習指導案

指導者 鈴木 雄大

1 主 題 きまりを守る C—(10) 遵法精神、公德心

2 ねらいと教材

- (1) ねらい 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに自他の権利を重んじ、義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように務める態度と実践意欲を育てる。
- (2) 教材名 二通の手紙（東京書籍「新しい道徳3」）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

中学校の内容項目C—(10)は、「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること」をねらいとしている。義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように務める態度と実践意欲を育てる。

(2) 児童生徒の実態と教師の願い

生徒の実態について（*人）

<p>日曜の朝、晴人君は家族と、川原でバーベキューをやっています。だれもいなかったもので、場所をととても広く使っていました。ところが、1時間ほどたつと、ほかの家族がバーベキューの道具を持って、やって来ました。そこで、晴人君のお母さんが「少し場所をゆずろうか。」とみんなに言いましたが、「広いほうがいから、ゆずらなくていいよ。」と、妹が言っています。</p>	
<p>《心情》 そのとき、晴人君は、どんな気持ちだったでしょうか。</p> <p>ア ぼくたちが先に来ていたのだけれどなあ。</p> <p>イ 全部はゆずれないけれど、少し場所をゆずってあげたいな。</p> <p>ウ ほかの人たちが来なければよかったのになあ。</p> <p>エ このまま広く使いたいけれど、ほかの家族のことが気になるな。</p>	<p>*人</p> <p>*人</p> <p>*人</p> <p>*人</p>
<p>《判断》 結局、晴人君たちは、少し場所をゆずることにしました。このとき、晴人君はどんなことを考えたのでしょうか。</p> <p>ア 別の場所でやってくれればいいのに。</p> <p>イ 本当は広く使いたいけれど、自分たちのことだけ考えるのはやめよう。</p> <p>ウ 先に場所をとったのだから、このまま使っていたかったな。</p> <p>エ 自分たちもほかの家族も、みんなが楽しめたほうがいいな。</p>	<p>*人</p> <p>*人</p> <p>*人</p> <p>*人</p>

本学級の生徒は、法やきまりの意義を理解することはできる。また、法やきまりを守ることでお互いに幸せに感じたり、妥協案を考えたりすることができる。

しかし、調査結果を心情面から見ると、法やきまりを自分本位に解釈する生徒も少なくないため、その心情を友達同士で共有し合うことがある。また、その解釈通りに友達同士で行動してしまうことがあり、意思の疎通ができなかったり、思いやりのない行動につながっていたりする。

そこで、本教材の主人公の心に共感しつつも、それを越えた社会の秩序と規律を高めるように務める態度と実践意欲の育成につなげたい。

(3) 教材について

本教材は、動物園の入園係をしていた元さんが、閉園間際に姉弟を入園させたために懲戒処分となったことを元さんの同僚であった佐々木さんが思い出して語るという内容である。幼い姉弟のためにと、入園時間と保護者同伴の二つの規則を破って入園させてしまう。保護者からは「感謝の手紙」そして、職場の上司からは「懲戒処分」の通告という二通の手紙を受け取った元さんの姿を通して、法やきまりを守ることの意義について考えさせていく。本教材は、ややもすると幼い姉弟を思いやる元さんの心情的な部分に共感する生徒が多くなると思われる。優しさゆえに規則を破ってまで入園させた元さんの行為を取り上げるのではなく、あくまで、元さんの行為が規則を逸脱した行為であることを踏まえ、義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように務める態度を養う。

そこで、導入の段階で、規則を守るとどのようなことがあるかを考える。賛同的な意見や批判的な意見のどちらも取り上げ、日常生活での規則を考えることを通して、ねらいとする価値への方向付けを図る。

展開の前段では、なぜ元さんは、規則を破ってまで姉弟を入園させたかを考えさせ、姉弟の行動に対しての思いやりが見られることを考えられるようにする。また、姉弟が迷子になり、他の職員からの連絡を待っていた元さんの心情を考えさせることで、規則を破ってしまったことへの後悔や罪悪感、何より姉弟の無事を祈っていることを考えるようにする。

展開の後段では、姉弟の母からの感謝の手紙と園からの懲戒処分の二通の手紙を見比べながら、元さんの心情を考える。その際、マッピングを用いて、元さんを中心として、元さんに関わるいろいろな立場の考えを整理することで、多面的・多角的に考えることができるようにする。

終末には、上記のマッピングから、規則の果たす役割を整理し意見を交流することで、元さんのはれぱれとした表情の中にある真意に触れ、生徒自身の考えを確かなものにし、ねらいに迫る。

さらに、今日の授業での心情円盤の変化を、ワークシートに記録し、自分の変容について可視化することで道徳的な実践を育てることができるようにする。

4 学習の指導過程

(1) 目標

主人公の言動と二通の手紙について考えることを通して、法やきまりの意義を理解し、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする態度と実践意欲を培う。

(2) 人権教育の視点との関連

グループ学習や発表の場面において、他者の考えや意見を傾聴し、互いのよさを認め合うことで本校の人権教育の視点3「相手の立場を理解し、協力することができる。」態度の育成を図る。

(3) 準備・資料

資料、ワークシート、掲示物（円、長方形のホワイトボード）、心情円盤

(4) 展開

■本校の人権教育の視点

◎本校の授業改善の視点から

段階	学習活動・内容 (◇発問◆中心発問)	予想される児童生徒の反応	指導上の留意点 (◎は評価)
導入 5分	<p>1 学習の課題をつかむ。 ◇規則を守ると○○○。○○○に当てはまる言葉を入れましょう。(一斉・Vの字)</p> <p>2 本時のめあてを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールによるスポーツのルールのようにその競技が成り立つ。 ・きまりは、窮屈である。 ・約束は、わずらわしい。 ・きまりがあるから公平である。 ・きまりにより安全な社会生活ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の本音が出るような雰囲気づくりをする。 ■規則に対して、賛同的な意見や批判的な意見のどちらにも必ず理由を話すよう助言する。
規則について考えよう。			
展開 35分	<p>3 教材「二通の手紙」の範読を聞き、話し合う。 ◇なぜ元さんは、規則を破ってまで姉弟を入園させたのだろう。(一斉・Vの字)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問を聞いた後、個人で心情円盤を用いて、入園させた方がよいか、させないべきかを円グラフの赤か青の割合で示す。(1回目) ・全体で発問を共有した後、心情円盤での割合を再考する。(2回目) <p>◇連絡を待っていた元さんは、どのようなことを考えていただろう。(一斉・Vの字)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・元さんは毎日来ていたことを知っているから。 ・元さんは姉の思う気持ちが分かったから。 ・姉弟が毎日毎日入りたそうにしていたから。 ・姉弟がせっかく来たのにかわいそうだから。 ・時間は少ししか過ぎていなかったから。 ・とにかく無事に見つかってほしい。 ・入園させなければよかった。 ・何かあったら取り返しがつかない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・始めから、佐々木さんが元さんの行動に同意したところまで読み聞かせる。 ・問題場面が把握しやすいよう、挿絵や提示資料(言葉)を使いながら資料を読み進める。 ・生徒の反応が思いやりに傾きつつあるので、元さんが姉弟のどんな状況に共感できるかははっきりさせたい。 ・姉弟が終了時刻になっても出口に来ることがないところから、姉弟が発見された報告を受けたと

	<ul style="list-style-type: none"> ・発問を聞いた後、個人で心情円盤での割合を再考する。(3回目) ・全体で発問を共有した後、心情円盤での割合を再考する。(4回目) <p>◆二通の手紙を見比べながら、元さんは何を考えていたのでしょうか。(一斉・Vの字→グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発問を聞いた後、個人で心情円盤での割合を再考する。(5回目) ・マッピングを用いて、元さんに関わるいろいろな立場の考えを整理する。(いろいろな立場) ・園の未来 ・元さん自身 ・姉弟の思い ・園の同僚または佐々木さん ・元さんの状況 	<p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに迷惑をかけてしまった。 ・一緒についていけばよかった。 <p>(元さん自身)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きまり」をやぶるとこんなにも大きな問題を生むのかと驚いた。 <p>(元さん→動物園の同僚または佐々木さん)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あのとき、自分には入園させないなど他の選択ができたのではないだろうか。自分勝手な行動で同僚に迷惑をかけてしまった。 <p>(元さんの状況…妻の死、子どもがいないなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうして処分を受けないといけないんだ。よいことをしたのに。 <p>(園としての思いや園の未来)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめを見つけなければいけない。このまま停職を受け入れ、その後、復帰できてもよいことはない。 <p>(元さん→姉弟への思い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のやったことはいけないことだが、それでも入園させたことに後悔はない。 <p>(姉弟の思い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あの姉弟がまたこの動物園に来たいと思ってくれたかな。 	<p>ころまで読み聞かせる。</p> <p>◎生徒の反応が規則を守ることに傾きつつあるので、規則を守らないことで、「誰に」、「どんな」危険やつらい思いがあったのかを根拠を明確にして考えさせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元さんのもとに、姉弟の母からのお礼の手紙と懲戒処分の通告の二通の手紙が届く場面まで読み聞かせる。 <p>◎発問に対してただ考えるだけでなく、誰から誰への思いの考えなのかを多角的に考えさせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賛同的な意見と批判的な意見のどちらも取り上げるよう指示する。
<p>終末10分</p>	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>◇「規則」とは、何のためにあるのだろう。(グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッピングの後、個人で心情円盤での割合を再考する。(6回目) <p>5 道徳ノートに、本時の学習のまとめをする。</p> <p>6 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は法やきまりは必要であると考えていた。守ることの意義の大切さについて知った。これから法を守っていく。 ・きまりは面倒くさいと思う日が続いていた。「自分だけなら…」という思いがあった。しかし、今日の授業で、得することと多大な迷惑を周囲の人々にかけることが分かった。法を守る大切さを知った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元さんの様子を最後まで読み聞かせ、職を自ら辞したことから規則の果たす役割を考えさせたい。 <p>⑥ 多面的・多角的の見方で、法やきまりの意義を考えているか。(発言・マッピング・道徳ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳ノートに、心情円盤の揺れの様子を記述する。 ・教師の体験談について話す。

5 他教科との関連

学級活動や朝の会・帰りの会で、規則について取り上げ、守ることの意義を考えさせたい。特に最上級生として、学校の規則を賛同的な見方で下級生に模範を見せたり、批判的な見方から規則の意義を再確認させたりしたい。